

## 粗大ごみ処理施設の処理能力の考え方について

### 1 粗大ごみ処理量の動向

近年の粗大ごみ処理量は図1のとおりであり、概ね約3万トンで横ばい傾向となっています。

本市では近年人口の増加が続く一方で、これまで展開してきた様々な3R推進施策により、ごみ総量は減少傾向となっていますが、そういったごみ総量の増減や人口の増減と、粗大ごみ処理量はそれほど関連性が強くないことが想定されることから、計画年次における粗大ごみ処理量は現状と大きく変わらないことが予想されます。

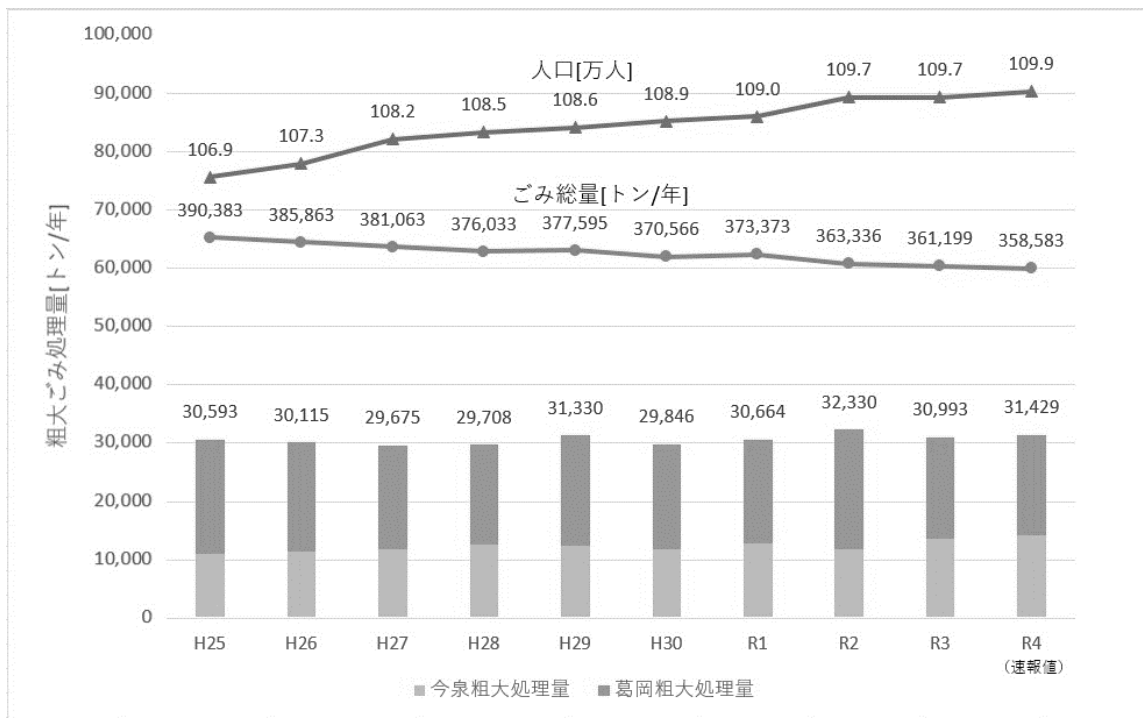


図1 粗大ごみ処理量の推移

### 2 新たな粗大ごみ処理施設の処理能力の考え方

粗大ごみ処理量の内訳としては、市民・事業者が自ら搬入するごみ（自己搬入）が7～8割と大部分を占めているため、日によって搬入台数や搬入量が大きく変動します。

粗大ごみは、家庭ごみや事業系可燃ごみと異なり、原則として搬入されたその日のうち、破碎処理を行う必要があります。

また、現状、区ごとなどエリアによる搬入先の指定を行っていないことから、排出元から最寄りの施設に搬入されていると考えられ、今泉・葛岡の処理内訳の比率は大きく変動しないことが想定されます。

以上のことから、新たな粗大ごみ処理施設の処理能力については、今泉粗大ごみ処理施設における繁忙期の搬入量を1日で処理できる能力を確保すること基本としますが、以下のような観点も踏まえて、基本計画において設定します。

- 現状における搬入物性状や破砕機の実稼働時間等の検証
- GW及び盆時期における休日の自己搬入受付や、SNSを活用した混雑状況の情報発信による繁忙期の搬入量の平準化効果
- 貯留ピットやストックヤード設置による繁忙期等の一時貯留の可否
- 確保すべき災害廃棄物処理能力の検証

なお、直近5か年の搬入量は表1のとおりであり、最大値としては令和元年度の129.16トンですが、この日は令和元年東日本台風発生直後の週末であり、災害廃棄物の搬入が多くなっています。そのため、平時での最大値としては、2位値の109.89トンとなります。

表1 直近5か年の今泉粗大ごみ処理施設への日搬入量（単位：台、トン）

		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
		台数	搬入量	台数	搬入量	台数	搬入量	台数	搬入量	台数	搬入量
今泉	平均	184	47.05	200	52.03	234	51.69	237	53.85	249	56.46
	最大	486	91.43	506	<b>129.16</b>	597	<b>109.89</b>	554	102.38	572	101.46
	変動率	2.64	1.94	2.53	2.48	2.55	2.13	2.34	1.90	2.30	1.80